



SUMMARY

特別講演(90分)の一部をご紹介します

「世界の山々をめざして」 —夢を実現させるために—

登山家 たべい じゅんこ 田部井 淳子

「登山入門」を通じて

数年前、NHK教育テレビから登山経験のない人を対象とした登山入門の番組のお話をいただきました。最終的には富士山へと続く10回シリーズです。初心者の方の学習能力の高さに驚かされながら、「一回一回の積み重ね」の重要性を私自身も再確認できました。

まず大切なのは「自分のペースで歩く」こと。これが疲れないコツです。40分歩いたら5分休む、40分歩いたら5分休む、とリズムを作っていくことが大事です。そして昼間に登るといこと。富士山には富士山でしか見られない風景がたくさんあります。振り向くと湖や田畑、田園生活が広がり、向かいには八ヶ岳から北アルプスまで一望でき、日本が山国だということが本当によくわかります。世界遺産にもなったことですし、日本人ならやはり一度は富士山に登っていただきたいと思います。

東日本大震災のあと、東北の高校生と富士山へ

福島県出身だということもあり、あの震災以来、私に何が出来るかということを実によく考えました。お金もそうですが、羽毛のズボンや帽子、手袋など暖がとれるものを集めて東北へ送りました。毎週のように訪れ話をするうちにわかったのは、「朝から晩まで何にもやることがない」、そしてそれが「辛い」といこと。そのような中で、「一緒にハイキングをする」ことであれば私にもできると気がつきました。身ひとつで避難してきた方たちですから登山靴なんかありません。普段着でも歩けるといこと、第1回は裏磐梯五色沼へハイキングとなりました。震災から三ヶ月後のことです。行きのバスの中ではあまり話は弾みませんでした、五色沼に着いた途端一変。先ほどまで無口だった方たちが、青い空にエメラルドグリーンの湖の色を見て子供のようにはしゃいでいる。津波ですべて流された方もいましたが、「外で食べるおにぎりは美味しいね」「あれはもう過去のことだね」「何かとても前向きになれたよ」と言ってもらいよかったです。

このハイキングをきっかけに、去年は被災した東北の高校生と富士山へ登りました。多感な時期に震災に遭い、高校生たちは言葉には言い表せないたくさんのものを胸の内に抱えています。自分たちは高校生だから一生懸命勉強しなきゃいけない、でも、一生懸命勉強したって、人間なんてあっという間に死んでしまう。身内や友達が流されていくのを目の当たりにした無常観を彼らは持っています。目標も失い、夢もなくなり、希望もなくなった。どうしていいかわからない。そんな時私たちの富士山登山企画を知り、富士山に行けば新しく開ける何かがあるかもしれない、そう思っ

て応募してくれた高校生がたくさんいました。道中、高山病にかかりくじけそうになった子たちもいましたが、サポーターの「一緒にゆっくり行こうよ」という励ましもあり、無事に全員登ることができました。行きはやる気の無さそうな「行ってきま〜す…」でしたが、帰りは「登ったよー!」「やりましたー!」「また行きたいですー!」と声を聞くだけでもとても元気。顔つきもまるで別人でした。登山後の作文からは「苦しかったけど諦めなくてよかった」「一步一步行けば、自分の目標を達成できることがわかった」という声が聴こえ、本当によかったと思いました。こうやって1人でも2人でも元気になってくれれば、大きな力になると思っています。私たちの活動が大きな力になることを望み、これからも続けていきたいと思っています。

現在私は74歳ですが、より密度濃く生きたいと思っています。私たちは限られた時間しか生きていくことができません。その限られた時間の中で、私たちが残せるものはお金でもなくモノでもなく、「自分たちの毎日毎日の生活の積み重ね」、つまり「自分だけの歴史」です。自分が本当にやりたいと思うものを悔いなくやってみたい。そして自分自身の歴史をうんと豊かなものにしたい。いつか死んでいくときに、「おもしろかった、やるだけやった、生まれてきてよかった」と思って死んでいきたい。七大陸最高峰の登頂は終わりましたが、今はどんな小さな国のどんな低い山でもその国の最高峰に登ろうと思っています。国連加盟国193か国のうちまだ66か国しか登っていません。現在、国内海外合わせて年間150、60日は山で過ごしています。これはとても幸せなことですが、200日以上ある日常生活も楽しまなくてはなりません。私なりの登山計画をどこまで達成できるかはわかりませんが、計画と実際の行動が一致していくような生き方をしたいと思っています。

講師 profile



1975年5月16日、世界最高峰エベレスト8,848m
頂上に立つ田部井 淳子氏(世界女性初)

写真提供 女子登攀クラブ

1939年 9月22日、福島県三春町に生まれる
1962年 昭和女子大学 英米文学科卒業。社会人の山岳会に入会し、登山活動に力を注ぐ
1969年 『女子だけで海外遠征を』を合言葉に女子登攀クラブを設立
1975年 エベレスト日本女子登山隊 副隊長兼登攀隊長として、世界最高峰エベレスト8,848m (ネパール名:サガルマータ、中国名:チョモランマ) に女性世界初の登頂に成功
1992年 女性で世界初の七大陸最高峰登頂者となる
2000年 3月、九州大学大学院 比較社会文化研究科 修士課程修了(研究テーマ:エベレストのゴミ問題)
現在 年数回、海外登山に出かけ、現在66か国の最高峰・最高地点を登頂。20~40代女性のための山の会MJリンク呼びかけ人。山岳環境保護団体・日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(略称:HAT-J)所属。

【著書】 「それでもわたしは山に登る」(文藝春秋) 2013年10月
「山の単語帳」(世界文化社) 2012年8月
「タベイさん、頂上だよ〜田部井淳子の山登り半生記」(ヤマケイ文庫、山と溪谷社) 2012年2月
「田部井淳子の 人生は8合目からがおもしろい」(主婦と生活社) 2011年5月
「日本人なら富士山に登ろう!」(アスキー新書) 2010年6月
「田部井淳子の 実践エイジング登山 いつでも山を」(小学館) 2008年 ほか多数

【受賞歴など】

1975年 ネパール王国から最高勲章グルカ・ダクシン・パフ賞
1987年 小惑星を発見したチェコの天文学者Antonin Mrkosが、エベレストの女性初登頂に成功した日本の登山家、田部井淳子に因みその小惑星の名を「6897Tabei」と命名
1988年 福島県民栄誉賞第1号、埼玉県民栄誉賞、川越市民栄誉賞、三春町名誉町民
1995年 内閣総理大臣賞
2004年 飛行家・探検家顕彰地球儀(アメリカ地理学協会所有)への71番目の署名者となる(日本人では初めての署名者)
2009年 NHK放送文化賞(授賞理由:放送を通じて多くの人に山登りの楽しさを伝えてきたことによる)
2010年 ネパール政府観光省よりテンジン・ヒラリー賞 ほか多数の賞を受賞